

チームごっくん

ニュースレター

摂食嚥下とは食べ物を認識してから口を經由して胃の中へ送り込む一連の動作の事です。摂食嚥下を5段階の5期モデルで考えるとき、「第1段階『先行期』どう食べようかな〜」についてお伝えします。

先行期では、食べ物を視覚（見る）、嗅覚（臭いをかぐ）、味覚（味わう）、触覚（触る）、聴覚（聞く）などの5感で認識します。この時、どの程度お口に含み、どのように食べたらいいかを判断します。食べ物を摂取するための食欲を含む精神面の問題、認知機能、全身状態、口腔の運動機能、唾液の粘性など、その人が食べる状態にあるのかということも考えなければなりません。

もし先行期が障害されると？



◆原因として認知症や脳血管障害後遺症があります。

薬剤では抗不安薬・抗けいれん薬の副作用が原因になることがあります。

◆視覚、触覚、運動機能の障害により食べ物を口に運べない、自分で食べることができないといった症状があり、またどう食べるか、食べたのか分からないなどの症状も含まれます。

特に機能低下のない方にとっては、「食べものを認識して口に入れる」という行為はごくあたり前で、意識することはないでしょう。

しかし、認知症などで認知機能が低下した方にとっては、「食べものを認識して食べ始めること自体がとても難しい行為」なのです。「食べものが目の前にあっても食べ始めない」「食べる意欲がわからない」「食べものを掴んでも上手く口に運べない」などはすべて先行期の障がいと捉えることができます。

そういった障がいのある方に対しては、食べものを認識しやすくするために食事の彩りや香りを工夫を行います。また、意識障がい（なんとなくぼーっとしている）のある方の場合、原因となる薬を内服していないかなどをチェック。それぞれの症状・状態に対するアセスメントと対応策を検討することが重要です。まとめると、先行期障がいとは認知機能や上肢機能の問題で「食べものを口まで運ぶ」段階に障がいがあったことを表します。